



Software Development

# Business Report

第56期 報告書

2025年1月1日▶2025年12月31日



- from challenge  
to breakthrough

## CONTENTS

### What's!?! ISB

アイ・エス・ビーグループ理念体系  
アイ・エス・ビーグループの事業領域

### ごあいさつ

### 連結事業領域別業績

### 連結財務情報

2026年度 業績見通し(連結)

### 会社概要 / 株式の状況

### 株主様向けアンケート結果ご報告

裏表紙のアンケートにご協力ください

# What's!?! ISB

## アイ・エス・ビーグループ理念体系

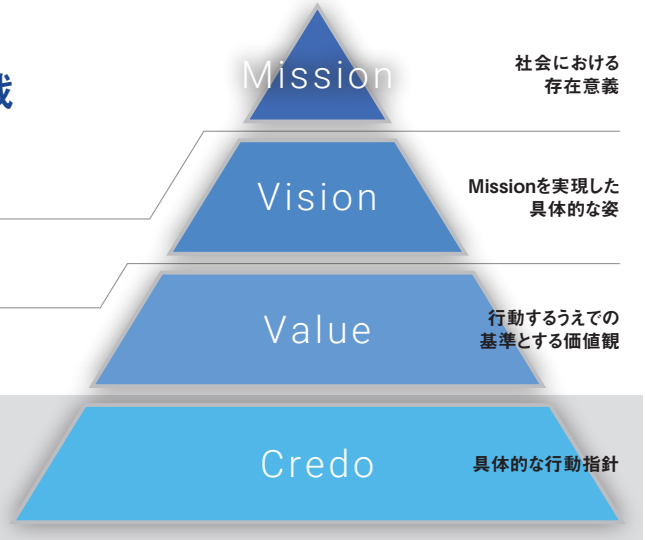
### アイ・エス・ビーグループ企業理念

## 夢を持って夢に挑戦

私たちアイ・エス・ビーグループは卓越した技術と魅力ある製品・サービスで心豊かに暮らす笑顔溢れる社会づくりに貢献します。

時代の変化に適応し、知恵とITの融合により、未来を切り拓く新たな価値を創造します。

誇り 誠実 挑戦



#### 誇り

プロフェッショナルとして、自らが技術とアイデアを磨き続け、成長するとともに企業の発展を通じて社員の健康と家族の生活を応援します。

#### 誠実

お取引先様と常に誠実に向き合い、あらゆる期待に応える解決策を提案します。ガバナンスとリスクマネジメントを徹底し、透明性の高い経営に努めます。

#### 挑戦

夢のある未来へ向けて、新たな価値の創造に情熱をもって取り組み、進化し続けます。

## アイ・エス・ビーグループの事業領域

私たちアイ・エス・ビーグループは卓越した技術と魅力ある製品・サービスで心豊かに暮らす笑顔溢れる社会づくりに貢献することをミッションとし、複雑化するICT社会に新たな価値を創造するソリューションと製品を提供しています。

ISBで開発したソフトウェアはさまざまな製品に搭載され、安全・快適・便利な社会を支えています。



### モビリティソリューション

モバイルインフラ、移動無線端末・基地局に関わるシステム、車載などの組み込みシステム

### エンタープライズソリューション

官庁・自治体、金融系企業向けシステム、ITインフラに関わるシステム

### ビジネスインダストリーソリューション

民間企業向けシステム、医療・産業機器などの組み込みシステム

### プロダクトソリューション

ALLIGATE(入退室管理システム)、Fit SDM(モバイルデバイス管理)

ソリューション事業・プロダクト事業の詳細はHPでご確認いただけます。

ソリューション事業ページ

<https://www.isb.co.jp/solution/>



プロダクト事業ページ

<https://www.isb.co.jp/products/>



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第56期(2025年1月1日から同年12月31日まで)の事業概要をご報告し、あわせて第57期の取り組みについてご説明いたします。

昨年の国内経済は、設備投資の拡大や底堅い個人消費に加え、AI関連分野を中心とした投資動向が下支え要因となり、緩やかな回復基調を維持しました。一方、海外経済は地政学リスクの高まりなどの不確定要素が多く、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが属する情報サービス産業におきましては、企業のIT投資需要が継続し、2030年代まで底堅い伸長が続くと見込まれていますが、ITビジネスに携わるプレイヤーにはより高度なノウハウ、力量が求められています。

このような状況の中、当社グループは、2024年を初年度とするISBグループ中期経営計画2026『「永続する企業」へ～Drive change to thrive～』に取り組み、3つの重点戦略である「人事戦略」、「情報サービス事業戦略」、「セキュリティシステム事業戦略」を推し進めてきました。さらに当社グループは、ISBグループ中長期経営計画2030を策定し、新たな挑戦を始動させました。これまで以上に成長投資を積極的に進めて事業基盤を強化し、社員一人ひとりが成長できる環境改善を進めることで、グループの強みである技術と多様な人材が持つ力を最大化し、「永続する企業」へと変革してまいります。



代表取締役社長 若尾 一史

## 「永続する企業」に向けたこれまでの取り組みを仕上げる 「中長期経営計画」を策定

### ■ 第56期の振り返りをお願いします。

第56期の業績につきましては、展開する多くの事業が伸長したものの、不採算プロジェクトによる原価増が影響し、増収減益となりました。セグメント別では、情報サービス事業のモビリティソリューションは車載およびモバイルインフラが堅調に推移しました。ビジネスインダストリーソリューションは不採算プロジェクトが発生したものの、受注状況は堅調に推移しました。エンタープライズソリューションは金融、公共、ITインフラともに受注が好調に推移しました。プロダクトソリューションは前期単年案件の反動や端末展開の低調により減収となりました。セキュリティシステム事業は収益の柱となりつつあるリカーリングビジネスが伸びており、増収増益となりました。

ISBグループ中期経営計画2026の進捗につきましては、引き続き当社グループの成長の原動力である多様な人材の力を伸ばす環境構築と事業基盤の強化を推進しました。

人事戦略では、グループ会社全社における初任給引き上げなど処遇改善を進めるとともに、2025年新卒採用数120人計画

達成など人材確保に努めました。人材育成およびエンゲージメントを高める取り組みにも引き続き注力しました。また、事業所の移転統合により作業環境と社員間コミュニケーションが向上し、生産性やプロジェクト推進に好影響を与えています。

情報サービス事業戦略では、事業基盤の拡大と安定した収益確保を目指し、上流工程への展開やプライム案件の拡大を進めました。

セキュリティシステム事業戦略では、顔認証などの新機能の充実とブランディング化でリカーリングビジネスの認知向上と規模拡大を推進しました。

### ■ ISBグループ中長期経営計画2030について教えてください。

ISBグループ中長期経営計画2030は、ISBグループのこれまでの取り組みが事業基盤強化と多様な人材の力を伸ばす環境構築において一定の成果を積み上げてきたことを踏まえ、2030年の売上高500億円を通過点とし、次の段階の成長に向けた準備の総仕上げを行う中長期計画として策定しました。当社グループは多種多様な業務を展開し、それが強みにもなっていますが、

「ISBグループは何の会社なのか」「どこに向かっていくのか」を2030年にはより明確にしていきます。

新たに策定したマテリアリティの一つ「技術で支える生産性向上・安心安全」に対しては、開発投資や専門人材の育成などにより、競争優位性を確立できる技術の高度化を進めるなどの取り組みを行います。「地域に根差した事業活動による雇用の創出と経済の活性化」は社会基盤に関する事業を展開してきた当社グループが特に力を入れるべきマテリアリティで、これに取り組むことでISBグループを全国規模に拡大していきます。「従業員一人ひとりが主役となる、働きがいのある企業文化の醸成」に対しては、改善するエンゲージメント項目として、「働きがい」の満足度指数の改善に取り組むことを繰り返して、トータルなエンゲージメントを向上させていきます。こうした会社の方針やメッセージなどを全社員に確実に伝えていくために、社員総会の実施や社内ツールで活字化して伝えるなどの活動を行っており、今後もコミュニケーションの深耕にこれまで以上に努めていきます。

事業戦略としては、情報サービス事業は既存事業の競争力強化でさらなる高収益化を目指します。セキュリティシステム事業はオーガニック成長に加え、グループシナジー発揮と事業創出投資



で成長を実現させます。利益率の高いリカーリングビジネスはしっかりと伸ばしていきます。

財務面では、資本コストや株価を意識した経営に努め、2030年におけるROE14.0%以上、配当性向50%以上を目指します。

**ISBグループ中長期経営計画 2030**

<https://www.isb.co.jp/newsroom/data/pdf/release20260213-1.pdf>



■ **2026年12月期の方針をお聞かせください。**

引き続き成長投資を行い、事業環境の改善、処遇改善を進めます。最終年度となるISBグループ中期経営計画2026の目標を達成し、ISBグループ中長期経営計画2030の取り組みを着実に進めていきます。

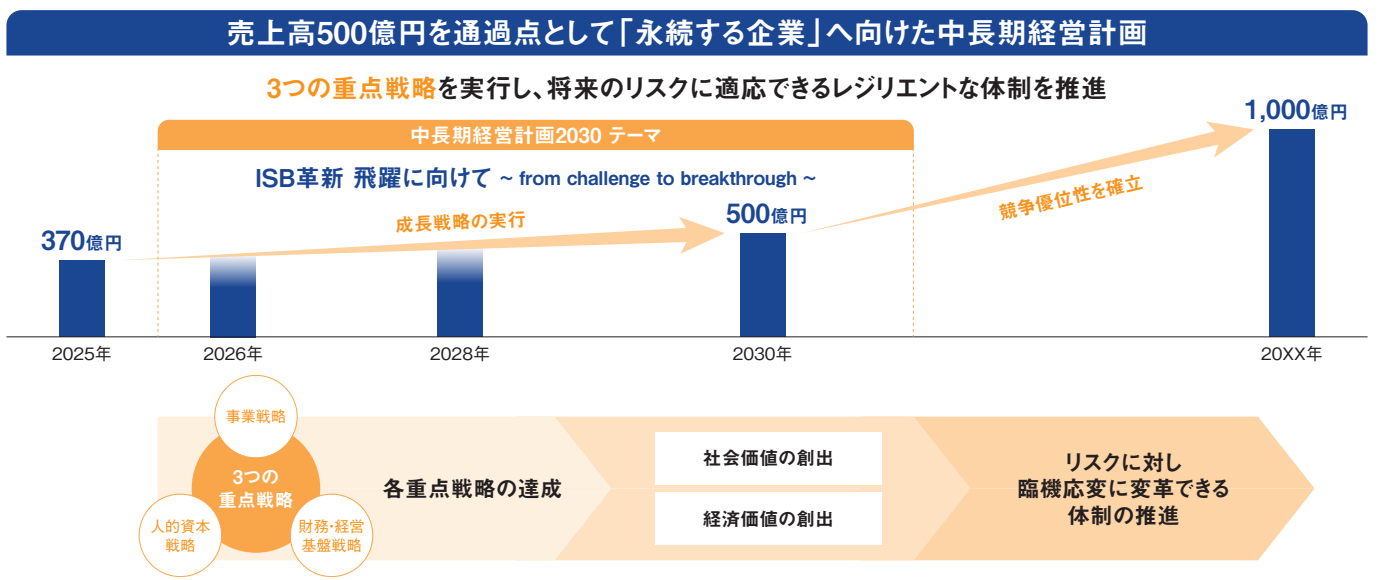
そのためには、技術力を高める教育と育成に注力し、お客様が認識している課題以上の提案ができる力量をつけていく必要があります。こうした取り組みを実績のある車載、金融、医療などの分野で行い、Tier1・Tier2の比率を高めていきたいと考えています。

■ **株主およびステークホルダーの皆様へ。**

当社グループは、2030年の売上高500億円を通過点とするISBグループ中長期経営計画2030を掲げましたが、「永続する企業」に向けたステップとして、将来的には売上高1,000億円を目指しています。これを実現していくためには、社員の環境改善と教育・育成を進めて当社グループの人材力を高め、提供するソリューションをより広範な分野に増やしていくことが必要です。そうした成長を続けることで「永続する企業」へと進化し、心豊かに暮らす笑顔溢れる持続的な社会づくりに貢献してまいります。

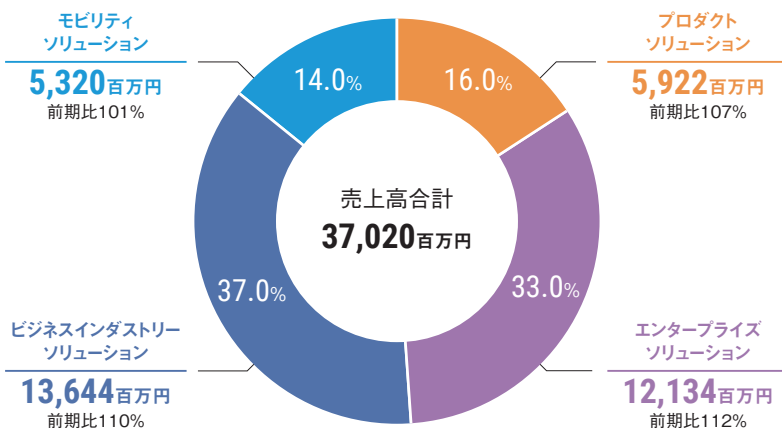
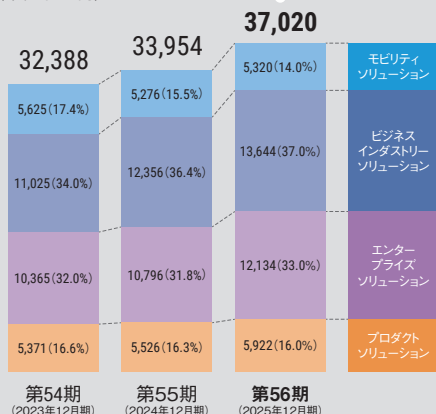
私たちの原点は創業以来変わらぬ「夢を持って夢に挑戦」という志にあります。社員一人ひとりの働きがいを源泉とした挑戦と成長を続けながら、引き続き「心豊かに暮らす笑顔溢れる社会づくりに貢献する」というミッションの実現に向けた魅力ある製品・サービスを提供してまいりますので、今後ともより一層のご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

**ISBグループ中長期経営計画2030 ISB革新 飛躍に向けて ~ from challenge to breakthrough ~**



# 連結事業領域別業績

売上高／構成比  
(単位:百万円)



## モビリティソリューション

### 業績見通し

#### 車載

引き続き技術者の人員確保、育成に注力。新規拡大に向けても取り組みを推進。

#### モバイルインフラ

5G関連漸減もWi-SUNは堅調推移。車載その他組込みヘシフトを継続。

#### 移動無線端末

既存顧客における取引シェアの拡大を推進。車載その他組込みヘシフトを継続。

### サービス紹介

車載分野では、車両に搭載される各種装備品を制御する「ECU (Electronic Control Unit / 電子制御ユニット)」のソフトウェアを開発しています。メタ、AD / ADASを含む、車両に搭載される各種ECUの開発を行っております。他にもConnected領域ではOTA、業務効率化ソフトウェアなども開発しています。次世代プラットフォーム開発にも挑戦していきます。

## エンタープライズソリューション

### 業績見通し

#### 金融

既存の証券分野に加え、銀行系の拡大を狙う。資格保有者や専門人材の育成を推進。

#### 公共

引き続き堅調を見込む。資格保有者の育成を推進し社会インフラ関連の取り込みを狙う。

#### ITインフラ

証券系インフラの拡大に加え、医療系の取り込みを狙う。クラウド技術者の育成を推進。

### サービス紹介

QRコードを活用した配管管理システムをご紹介します。

従来は、浄水場の現場で、納品された配管は、配管図面やその検査成績書の書類と見比べて照合していた作業でした。

当社が開発したシステムによりタブレット端末でQRコードを読み取り、電子媒体の図面や検査成績書と照合することが可能となり、生産性向上が期待できます。

※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。

## ビジネスインダストリーソリューション

### 業績見通し

#### 業務システム

受注前プロセスおよびプロジェクト管理の強化に注力することで品質と収益性を確保し、業務システムの推進を図る。

#### 組込み

既存案件の拡大に加え、新規獲得に注力。Qt活用案件の拡大を推進。

### サービス紹介

医療システムの一例をご紹介します。

院内の患者データ(診断情報や画像データ等)を統合管理し、パソコンやタブレット端末から医療従事者が閲覧するための院内システムや、画像診断装置の検査結果を2D・3D画像として表示する機能、操作画面制御のソフトウェア開発など医療機関の活動を支援するシステムを開発しております。

## プロダクトソリューション

### 業績見通し

#### 情報サービス事業 (MDM・IoT)

FIT SDMは引き続き大口案件の獲得、既存顧客の拡大を推進。高精度測位ソリューションも堅調な推移を見込む。

#### セキュリティシステム事業

出入管理システムの機能向上等により提案可能範囲を拡大、受注増狙う。リカーリングは、新製品投入によるALLIGATEの製品ラインナップ増で一層の利用者獲得を図る。

### サービス紹介

Fit SDMは、ノートパソコンやタブレット端末を一元的に管理・監視・制御できるモバイルデバイス管理 (MDM) サービスです。

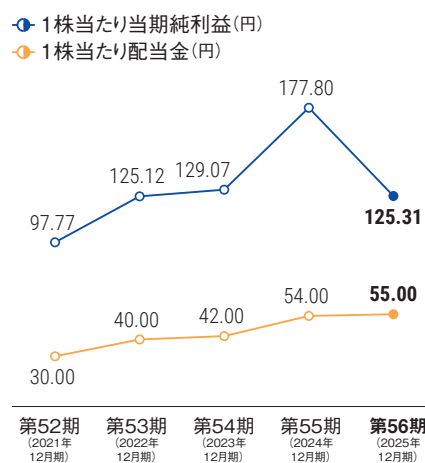
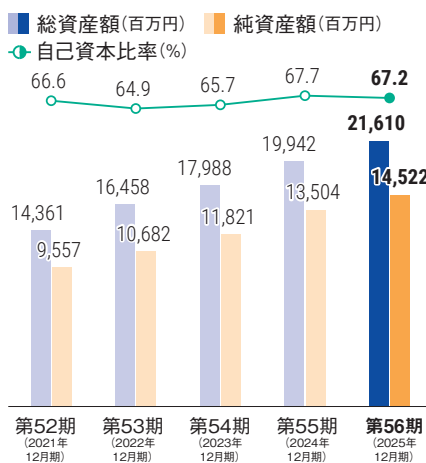
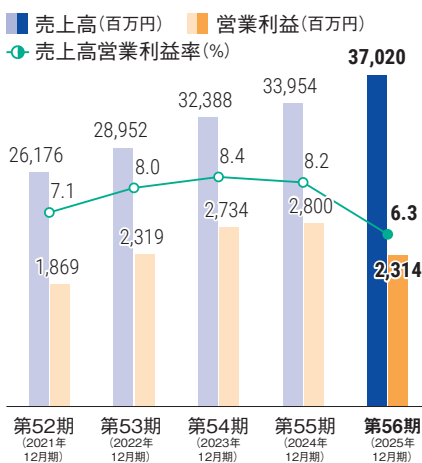
大手ホームセンター(従業員数: 約4,000人)では、各店舗の従業員用タブレットの端末管理やサイバー攻撃・ウイルス対策に活用いただいています。

また、大手運送会社(従業員数: 約20,000人)では、配送ドライバーのスマホにインストールし、配送時に利用するアプリの配布や紛失・盗難対策で活用いただいています。



# 連結財務情報

		第52期 (2021年12月期)	第53期 (2022年12月期)	第54期 (2023年12月期)	第55期 (2024年12月期)	第56期 (2025年12月期)
売上高	百万円	26,176	28,952	32,388	33,954	37,020
営業利益	百万円	1,869	2,319	2,734	2,800	2,314
売上高営業利益率	%	7.1	8.0	8.4	8.2	6.3
経常利益	百万円	1,940	2,401	2,810	2,892	2,384
親会社株主に帰属する当期純利益	百万円	1,110	1,423	1,472	2,032	1,435
純資産	百万円	9,557	10,682	11,821	13,504	14,522
総資産	百万円	14,361	16,458	17,988	19,942	21,610
自己資本比率	%	66.6	64.9	65.7	67.7	67.2
1株当たり当期純利益	円	97.77	125.12	129.07	177.80	125.31
1株当たり配当金	円	30.00	40.00	42.00	54.00	55.00
配当性向	%	30.7	32.0	32.5	30.4	43.9
自己資本利益率	%	12.1	14.1	13.1	16.1	10.2
株価収益率	倍	10.4	9.0	11.4	7.7	13.8



## 2026年度 業績見通し (連結)

売上高  
**385**億円  
(前連結会計年度比 4.0%増)

営業利益  
**30**億円  
(前連結会計年度比 29.6%増)

経常利益  
**30億50**百万円  
(前連結会計年度比 27.9%増)

親会社株主に帰属する当期純利益  
**18億50**百万円  
(前連結会計年度比 28.9%増)

1株当たり配当金  
**70**円



# 会社概要 / 株式の状況

## 株式の状況 (2025年12月31日現在)

発行可能株式総数	25,000,000株
発行済株式の総数	11,463,141株
株主数	3,559名

## 大株主情報

株主	当社への出資状況	
	所有株式数 (株数)	持株比率 (%)
有限会社若尾商事	2,001,400	17.45
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,145,900	9.99
アイ・エス・ビー・グループ従業員持株会	406,800	3.54
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	380,800	3.32
ヨシダトモヒロ	343,600	2.99
GLOBAL ESG STRATEGY	342,000	2.98
若尾一史	306,457	2.67
鈴木育夫	221,900	1.93
GLOBAL ESG STRATEGY	203,100	1.77
株式会社第一情報システムズ	180,000	1.57

## 会社情報 (2026年3月27日現在)

社名	株式会社アイ・エス・ビー ISB CORPORATION	
設立	1970年(昭和45年)6月	
資本金	24億1,024万円	
従業員数(連結)	2,752名(2025年12月31日現在)	
役員	代表取締役社長	若尾一史
	常務取締役	小笠原芳市
	取締役	関本祥文
	取締役	牧田甲希
	取締役	廣瀬雅也
	取締役	山本年朗
	取締役(常勤監査等委員)	竹田陽一
	社外取締役(監査等委員)	清水亜希
	社外取締役(監査等委員)	佐藤香代
	社外取締役(監査等委員)	長谷川智彦
社外取締役(監査等委員)	森孝義	
本社	〒108-0075 東京都港区港南2-16-3 品川グランドセントラルタワー	
	TEL 03-6775-3270(代表)	
	FAX 03-6775-3277	
事業所	品川、仙台、五反田、甲府、名古屋、大阪	

## グループ会社(2026年4月1日現在)

株式会社エス・エム・シー	システム設計構築、運用保守サービスなど、顧客のビジネスを支援するITサービスを提供。
ノックスデータ株式会社	長年培った品質を強みとし、スピード感を持ってソフトウェアを開発。
北海道アイエスビー株式会社 (旧株式会社スリーエス)	ソリューション事業・ソフトウェア事業を展開。首都圏などからの受注も推進。
株式会社アート	業界のバイオニアとして入退室管理システムなどのセキュリティ関連製品の開発・販売。
アートサービス株式会社	アート製品の修理・保守サービスを提供。
九州アイエスビー株式会社 (旧コンピュータハウス株式会社)	技術力や想像力を背景とした質の高いITサービスの提供。
株式会社テイクス	IT技術者の育成を強みに、システム開発支援およびインフラ構築・運用保守支援事業を営む。
ISB Vietnam Company Limited	海外リモート開発で、高品質かつ適正価格のサービスを提供。
株式会社AMBC	経営戦略の策定、業務プロセス改革、ITシステム開発など幅広い分野で企業のデジタル変革を支援。

## 株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
期末配当金受領株主 確定日	12月31日
中間配当金受領株主 確定日	6月30日
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711(通話無料)
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711(通話無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場
公告の方法	電子公告により行う公告掲載URL <a href="https://www.isb.co.jp/">https://www.isb.co.jp/</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## ホームページのご案内



IR情報や当社に関する最新動向をお伝えしております。



# 株主様向けアンケート結果ご報告

当社では株主の皆様との対話を重視し、その一環として皆様からのご意見を伺うため株主様向けアンケートを実施しております。

昨年は全株主様の10.4%にあたる412名の株主様からご回答をいただきました。

アンケートにご協力いただきました株主様に厚く御礼を申し上げますとともに、皆様の貴重なご意見を今後の経営やIR活動に活かしてまいります。

ここにご回答いただいた内容の一部をご紹介します。

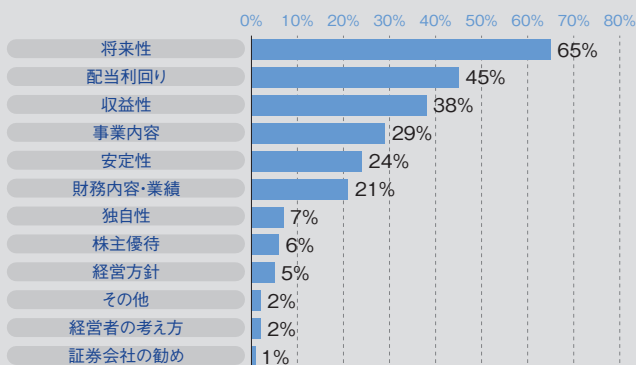
尚、当社ホームページには全問の回答結果を掲載しておりますので、そちらもご覧ください。



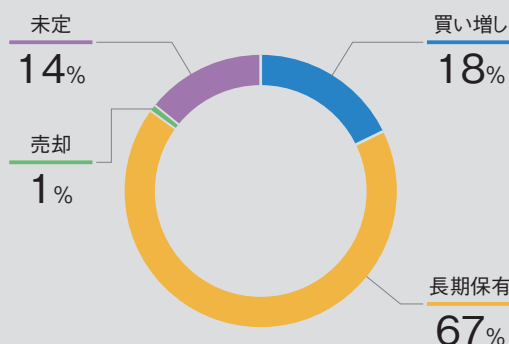
<https://www.isb.co.jp/newsroom/data/pdf/release20250801.pdf>



あなたが当社の株式を購入された理由は何ですか。(いくつでも)



あなたは当社株式に対してどのような方針をお持ちですか。



## 株主様からのご意見

- 情報サービス産業はAIの普及により、今後、大きな変革期を迎えると感じますが、貴社の技術、独自性に将来性を感じ、長期保有しているひとりとして持続的な成長を期待しています。
- これからの時代に合った事業内容だと思います。株主還元より成長投資にどんどん使って長期的な株価上昇に寄与してください。
- 技術力、積極性の高い社員さんが多いと感じますので、収益性の高い領域への進出、転換を期待します。
- 人的投資を評価しています。
- 人への投資とM&Aは企業の発展には不可欠。経営者の手腕に期待します。
- 規模も大切ですが、特色のある事業内容が大切かと思います。
- 知名度が低く、会社が正しく評価されていないと思う。もっと積極的な広告が必要ではないか。
- ぜひ、オンライン会社説明会を定期的(四半期毎)に行って欲しい。
- 紙での報告書の提供は続けて欲しい



〒108-0075  
東京都港区港南2-16-3 品川グランドセントラルタワー  
TEL : 03-6775-3270(代表)  
FAX : 03-6775-3277

<https://www.isb.co.jp/>



## 株主アンケート

みなさまの **声** を  
お聞かせください

<https://koekiku.jp>

アクセスキー 9702C5cG

抽選で500円分のギフト券を進呈!



サービス運営会社：株式会社プロネクサス  
お問い合わせ：コエキク事務局  
koekiku@pronexus.co.jp

コエキク

